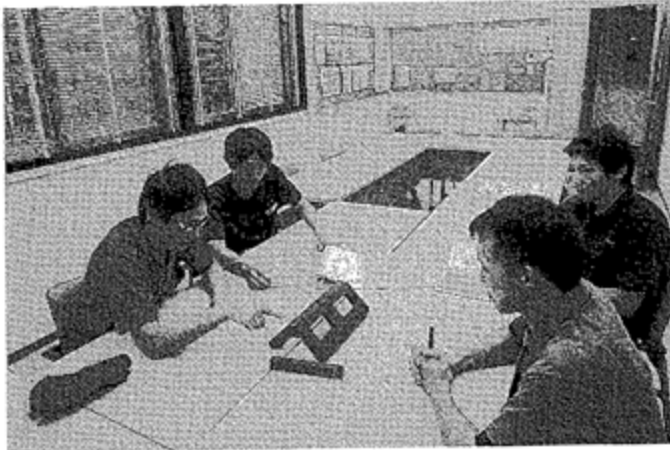


鈴木化学工業所の開発グループ

若手従業員が異業種展開模索

自動車向け樹脂製部品メーカーの鈴木化学工業所(本社愛知県幸田町六栗、鈴木啓之社長、電話0564・64・1058)は、若手従業員で構成する新規事業開発グループ「キッズワークス」の活動が活発化している。同グループは2週間に1度、終業後に会議を開き、精密さを伴う同社の射出成形技術を異業種にも展開する手段を模索している。グループ結成から約1年が経過し、介護関連製品の試作に取り掛かる段階まで活動が進展。若手従業員の育成を図りながら、事業領域の拡大をめざす取り組みが形になり始めたようだ。

(岡崎・強田裕史)



新規事業開発のための会議を開く「キッズワークス」のメンバー



鈴木啓之社長

射出成形技術を活用

介護分野で試作も

キッズワークスは、24歳の若手従業員5人でメンバーを構成している。メンバーの所属は、間接部門である「管理課」と生産現場

メンバーの知人の紹介や幸田町役場の協力もあり、実際に同町内の特別養護老人ホーム2カ所を訪問し、職員や利用者に対話する機会を得た。

特養の視察を通じ、ニーズとして浮かび上がったのが、福祉車両の後部座席に乗りこえるための「取っ手」だ。目の前につかみやすい取っ手を設置し、楽に立ち上がることができるようにするという発想を基にして製管開発に着手した。

現段階では樹脂製の取っ手の試作までこぎつけたが、実用化まではまだ程遠いという。しかし、リーダーの桑台進介さん(30、管理部管理課)は「医療・介護分野への参入は業ではなをめぐす方針を固め、製品が潜在しているはず」と現状に手応えを感じている。

同社は、使用する金型に改良を加えるなどして、複雑な形状の射出成形もこなす技術力を培ってきた。将来を見据え、その技術力を幅広い業種に生かすきっかけづくりを若手従業員に託した。自発的に業務の課題を乗り越える機会を与えることで、若手の成長を促すねらいもある。

鈴木社長は「モノづくりは若い力が集まって初めて花開く」と期待している。

場を担う「成形課」に分かれており、まだ特定の部署に配属される以前の新人社員もグループに加わっている。

部署の垣根を越えて集まったメンバーは定期的に会議を開き、新しい市場を開拓し事業として確立する手段を模索している。こうした議論を重ねるなか、まずは医療・介護分野への進出をめざす方針を固め、製品開発の種を探し始めた。